

一般廃棄物処理基本計画改定 第6回専門部会
平成27年10月19日
参考資料 1

神戸市一般廃棄物処理基本計画改定に係る第5回専門部会 【論点整理】

●目標指標と数値目標

- ・50g削減の根拠は？振り分けたということか？（鳥越委員）
→まず指標を原単位に設定し、つぎに目標の持ち方を10%に設定し、どのように達成していくかについてはごみ組成調査を元に設定した。（事務局）
→なんとなく振り分けたのではなく、社会的に問題となっている食品ロス、可能性のある資源ごみをターゲットとしている。（中野部会長）
- ・分別や発生抑制の仕方について、一人ひとりが意識しなくてはできない。意識啓発が一番問題。北区では、容器包装プラスチック分別時は熱心にやったが、今は意識が薄れてきているように思う。（高尾委員）
→分別と発生抑制が混同しているところがあるので、無駄をなくす方向も具体的に考える必要がある。（中野部会長）
- ・生協では昨年かから雑がみに着手し、割と進んだ。社員が分別を行うのだということ投げかけ、分別方法を整理すれば協力が得られた。（益尾委員）
- ・資源化できる紙77gのうち削減目標は14gというのは、控えめではないか。（藤原副部会長）
→分別可能性や認知度の低さから、力を入れていかなければいけない項目ではあるが、啓発に関わらず量が減ってきており目標値としてあげにくい。雑がみの分別可能性は大きいため、再検討する。（事務局）
- ・扱いが難しいと思うが、事業系ごみは企業の移動等を考慮しない総量目標で問題はないか。（藤原副部会長）
→市の管理する焼却炉で事業系ごみも焼却しており、ごみの総量を管理指標とした。（事務局）
→事業所の動態はここでは反映しきれない。（中野部会長）
- ・残り10年で9%減というのは年平均1%減であり、削減可能と思う。一番簡単なのは食品ごみ、一番量が多いのは野菜くずであり、来店データや仕入れ段階の工夫により、小売スーパー部門では可能と思う。（鳥越委員）

- ・雑がみについてもう少しちゃんと説明して頂きたい。集団回収は婦人会が主にやっているの、自治会にも案内を。(岡本委員)
 - 「雑がみ」は今までなかった用語で、フィット感がない。個人だけでなく自治会単位にも啓発を。(中野部会長)
 - 雑がみ専用箱を作って徹底すると効果が高いという事例報告がある。雑がみは可能性のあることと、重量が重く減量効果が出せると思う。2割は遠慮がちだと思っので、むしろここを大きく減らす対策をとってはどうか。(花田委員)
 - 明石市では雑がみを絵で解説した紙袋を配布し、非常にインパクトがあった。(中野部会長)

- ・事業系の食品ごみについては、飼料化やコンポストルートは難しいか。(花田委員)
 - 費用がかかり、難しい。(鳥越委員)

- ・削減目標の内訳はこれでよいか。資源化できる紙を増やしたほうがよいか。(中野部会長)
 - 内訳を書くと目標の上限と捉えられないか。(藤原副部会長)
 - 減らすとしたらこんなターゲットがあるという程度で、内訳の数字にこだわらなくても良いのでは。(中野部会長)

- ・市民との距離を縮める必要がある、「水切り」より「絞る」という表現のほうが直感に訴え行動に結びつきやすいのでは。(中野部会長)

●基本理念及び基本方針

- ・神戸の特性を生かしたデザインの工夫とは？(黒坂委員)
 - 啓発と違った切口で自然と皆さんができる工夫をしたい。(事務局)
 - ごみ袋のデザインや食べきり協力店ステッカーなど、視覚的に訴えることも考えられる。(中野部会長)
 - もうすこし具体的に、方向性を書いてはどうか。(黒坂委員)
 - 施策と市民の距離が遠いのが問題。(中野部会長)

- ・「順守」を「遵守」に直すべき。(藤原副部会長、黒坂委員) / 「取組」の送り仮名を統一すべき。(黒坂委員)

- ・「一般市民と事業所への情報発信」で、市民・事業者・行政に対することが一緒になっており、わかりにくい。(藤原副部会長、中野部会長)

- ・「2R」という言葉があるが、これまで「3R」だったのに対してトーンダウンした印象を持つ。また、子どもを通じて親も教育する考え方もありと思う。可愛い、格好いい、座りの良いキャッチフレーズと、キャラクター、メロディをトータルでデザインすれば、後世に残るのでは。無意識に頭に残って、知らない間に行動できるものを。(益尾委員)

●生活排水処理基本計画及びし尿浄化槽汚泥処理基本計画

- ・平成32年度の目標値はそのまま継続させるということか。(藤原副部長)
→そのまま継続する。行政目標、努力目標の位置づけである。(事務局)

(以上)